



心
0
心
心

若者のアクション手帖

SDGs Youth Summit 2021
Workshopより

目次

目次	1
Introduction	2
分科会1-1	3
分科会1-2	6
分科会2-1	8
分科会2-2	10
分科会3-1	12
分科会3-2	14
まとめ	15

Introduction

SDGs Youth Summit 2021にて、「Choose Your Future; ~ youth-led action towards SDGs ~」をテーマに、若者の意見を社会に発信・実現するためのアクションを検討するワークショップを実施しました。そして、このアイデア帳では、イベント内で行われたワークショップでの検討プロセス、並びに若者の間で考えられたアイデアをご紹介します。

今回、2021年度開催のHLPFにて話し合われた内容に基づき、3領域のテーマに関して可能なアクションを検討いたしました。（詳細はSDGs Youth Summit 2021 報告書をご覧ください。）

1. 私たちの働きがいがある仕事の未来
2. コロナ後の経済対策と環境対策
3. 誰一人取り残されない公平で平等な健康と福祉

このテーマに関するアクションを考えるにあたり、デザインシンキングという、ユーザーの視点を起点にアイデア実現のPDCA(Plan, Do, Check, Action)を回す思考方法を活用しました。ユーザーの目線を理解し反映させるために、以下のようなプロセスを実施しました。このプロセスを様々なオンラインツールを利用してディスカッションを加速させ、最後はロールプレイを通して発表を行い、専門家よりフィードバックをいただきました。

1. 共感する—問題の理解を深める
2. 定義する—ペルソナを決めて抱えている課題を定義する。
3. 考える—解決策を洗い出す
4. プロトタイプを作る—アイデアを実行に移してみる
5. 評価する—アイデアの改善点を探る

以下より各分科会のテーマに関して提起された課題、学んだ内容、及び考えたアクションを共有します。キーノートセッションで専門/活動家から学んだ知識、そしてワークショップで協力して考えたアイデアの結晶をご覧ください。

*PDCAとはPlan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)のサイクルを繰り返すこと、継続的なアクションの改善を行うこと。

ペルソナ1 育児休業/男性

基本情報
名前：佐藤拓実（35歳男性）
家族構成：妻・第1子誕生予定
住所：東京都
収入：年500万円
職種：商社（営業）
コロナでも絶賛運動中

詳細情報
休日の趣味：釣り、サッカー
利用するSNS：Twitter, Instagram
モットー：亭主関白にはならない！
悩み：そろそろ会社で重要な役割がもらえるようになってきて責任重大

ストーリー
入社時から続けてきた真面目な勤務態度が功を奏し、今のところ同期の中で最も重要な役割を任されている。そして1年前に結婚し、子どもを授かった。そして、待望の第一子が誕生したため、子育てのために育児休業を取得しようとするが、上司に相談したところ、嫌な顔をされた。また、社内で男性が育児休業を取った例はまだ見られないそう。これからの昇進のため、上司に意見を出す勇気が出ない。

男性でも育児休業は取りやすくなってほしい

Team名
Target
Insight
Idea Theme
Issue
Know Solution
Try Solution
Result

△デザインシンキングを活用するために利用したペルソナシート(右)とアウトプットシート(左)

分科会1-1

日本が抱えるディーセントワークとジェンダー問題

- キーノートセッションでの学び

日本全体で労働人口が減少、人材獲得競争が激化しています。その結果、人口ボーナス期から人口オーナス期へ移行しましたが、オーナス期に対応した働き方(たとえば男女平等、短時間労働、多様性)が手に入れられてない現状があります。

*人口ボーナス期: 人口構成比の子供が減り生産年齢の人口が多くなった状態

人口オーナス期: 働く人よりも社会保障制度上支えられる人が多くなった状態

出典: 株式会社ワーク・ライフ・バランス『人口オーナス期に経済発展するには』



- ワークショップの議論

- Group1

- 検討した課題

- 男性の育児休業(育休)は制度としてはあるが、上司の理解がなく、育休後のキャリアに不安を感じることがある。育休を男性が取りづらく感じられ、育休の制度が効果的に機能していないという現状があります。

- グループから出てきたアイデア

- ペアパートナー制度
 - 同じタスクを行うことができるペアを作り、お互いが休んでもそのポジションの仕事を補える環境を整備することで、会社全体の仕事には支障がないようにする制度。結果、上司に成功体験を確認してもらい、今後育児休業がとりやすい環境になります。

- 講演者の講評

- 今後、男性の育児休業の取得率は公表しなければならないこと、そして育児休業は企業や取得者のいる自治体によっては休業を取ったら企業にお金が入ることなど、男性の育休制度を会社が推進するメリットが増えています。今後そのメリットの訴求も可能だと考えられます。

○ Group2

■ 検討した課題

- 女性の子育てと出世の両立の問題の潜在的課題は、マネジメントをする上層部の理解が足りていないこと、そして社内の環境の整備が足りてないことが起因しています。

■ グループから出てきたアイデア

- 上層部に向けた研修の開催
 - まずは問題を周知させることで、女性が子育てしやすい環境を作ることが必要かと考えました。その環境の例として、子育てスペース、リモートワーク、助け合いや実績を重視するシステムなどがあると思います。

■ 講演者の講評

- リモートワークを積極的にやっていくことは大切だし、今の時期取り組みやすいと考えられます。女性は子育ての時間が増えることを考えると、個人よりチームへの貢献を頑張ることで、能力を示すことができます。ワーキングマザーは短時間で仕事をするノウハウがあるため、全体で功績は良いまま時間短縮を図れる有効な存在ともなります。ワーキングマザーの上司が早退する場合、次のポジションの人からその上司の仕事を引き継いでいくことで、次の世代が次のポジションの仕事を知ることができたり、仕事で評価をしてもらえる機会を得ることも増えるかもしれないと考えています。

○ Group3

■ 検討した課題

- 介護と仕事の両立に対する考えがあまり普及しておらず、介護休業により現行の評価基準だと評価が落ちる可能性があります。評価基準が時間ベースの場合があることが問題です。

■ グループから出てきたアイデア

- 評価基準の改善
 - 時間ベースではなく社会への貢献度で評価する必要があります。
- 介護をしても働きやすい環境づくり
 - 長時間仕事に参加できていなくても、意思決定に携われる機会を設けること、そして業務状況のアップデートは休業中でも受けられるなどの環境が必要です。

■ 講演者の講評

- 積極的に自身が介護休業取得の第一号になることで、将来男女ともに介護をしながらも働きやすい環境になると思います。介護休業は育児休業に比べて取得していない人が多く、介護のニーズが潜在化してしまっているため、取得したくても取得できない人が多いです。人事はもしかしたらそのニーズに気が付いていない可能性があり、その訴求も検討すべきです。

○ Group4

■ 検討した課題

- ジェンダーに関する昔の慣習から抜け出せないのは、ジェンダーの問題の原因を知らず、行動してしまっていることにあり、日々の

生活などで無意識のうちに行っている差別を認知・アップデートさせる必要があります。

■ グループから出てきたアイディア

● 行動で示す

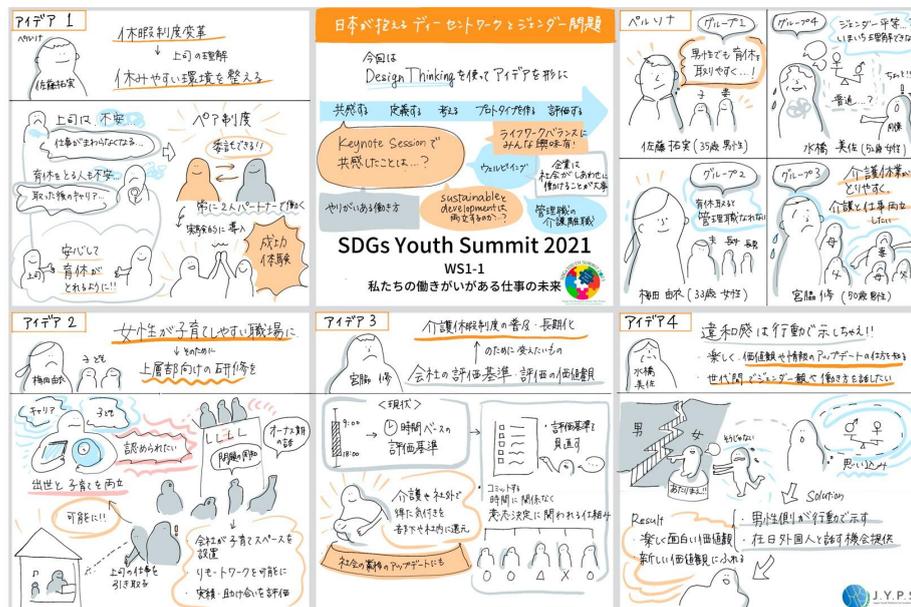
- 男女が一緒になって洗い物をするなど、言葉で非難するのではなく、周りが行動で示すことが必要だと思います。

■ 講演者の講評

- 価値観をアップデートさせるためには、最近是这样である、ということ、直接的ではなくさりげなく伝えていくことで否定をすることなく伝えられると考えています。育児休業を「今の新卒男子は8割がとりたいと言っているんだそうですよ〜」など伝えると雰囲気が変わるかもしれません。

○ 講演者からのまとめの講評

休業問題は時間的制約があるため「お願い」をすることになってしまいます。そうすると、「我慢して」と上司から言われることも増えてしまいます。そのため重要なのはウィングプレゼンであり、問題を放置するリスクや解決するメリット、他企業の例などを示しながら、プレゼンしていくことが大切です。また、上司の仕事の一部を代わりに自分が担うことは今後昇格した時の参考にもなり、さらにコミュニケーションにもつながるため、重要な解決策の1つになるかもしれません。



作者名: 安田 遥

分科会1-2

急激な産業化と人々の健康と幸せ

- キーノートセッションでの学び

人類の歴史において、経済成長に重きを置く「成長優先の時代」と人間らしさに重きを置く「文化優先の時代」が規則的に繰り返されています。時代の優先事項が変わりつつある今、社員全員が幸せな良い企業のあり方が求められてきています。



前野 隆司 氏

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授／慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長兼務

- ワークショップの議論内容

- Group1

- 検討した課題

- 周りから信頼を得られず自分のやりたいことができないという問題の解決には、自分の信念を伝え、共感してくれる人が必要です。

- グループから出てきたアイデア

- ブログに自分の生き方に関する考えを書く
 - 自分の考えを認めてくれるコミュニティと出会うことができ、新たなつながりが増やすことができます。更に、ブログがいずれ仕事の機会創出にもつながることが期待できます。

- Group2

- 検討した課題

- 社会人2年目でそこそこ安定しているものの、自分がやりたい仕事を見出せないという問題の背景には、安定した収入とやりたいことをどう両立したらいいかわからないという課題があります。

- グループから出てきたアイデア

- 社外のコミュニティに参加する
 - 同じ問題を抱えた仲間と思いを共有したり、そのコミュニティでキャリア相談を行うことができます。収入をしっかりと得ながらも社外のコミュニティでやりたいことができるかもしれません。

- Group3
 - 検討した課題
 - やりたいことが分からず、1人で生きていけるのか不安なのは、自分の強みが分からないからだと考えられました。
 - グループから出てきたアイデア
 - ロールモデルを見つける
 - インターンやSNS上で出会った同じ境遇の人やロールモデルを見つけ、自分の価値観を本音で話す事で、強みを考えるきっかけを作ることができます。

- 講演者からの講評
 - 今の時代、若い人は特に自分がやりたいことを見つけないといけない時代になりました。世界が繋がったことでさらに広く自由な社会で自分が本当にやりたいことを見つけないといけないが、ちゃんと探せば見つけれらると思います。今はみんながやりたいことを助け合う世界です。若者の直感正しいので、どんどんチャレンジして行ってほしいです。



作者名: 安田 遥



△分科会1参加メンバー

分科会2-1

新型コロナウイルス後の地方の新しい街づくり

- キーノートセッションでの学び

国連人間居住計画で打ち出されたニューアーバンアジェンダに提示されたまちづくりに沿って災害に強いデータを活用されたオープンなまちが目指されましたが、東京一極集中の流れは止まりませんでした。その一方で、コロナや再生可能エネルギーの競争力などを背景に、都市と地方の関係が変化してきています。



藤野 純一 氏

公益財団法人
地球環境戦略研究機関
(IGES)

- ワークショップの議論内容

- Group1

- 検討した課題

- コロナでリモートワークに移行し都会の利便性と環境の良さの間で地域移住を悩んでいる方がいます。移住を促進するには実際に自身が住むイメージや家族の想いを確かめるきっかけが必要です。

- グループから出てきたアイデア

- 地方の良さを体感する1週間家族ツアー
 - 古民家に1週間くらい現地滞在するなど、実際に住まないで得られない雰囲気を経験することで、地方に移住する際の不安が解消され、もっと気軽に引っ越すことが可能になると思います。

- Group2

- 検討した課題

- 活気ある町づくりのために若者を惹きつけられない理由は、高校卒業後にまちに留まる若者が少なく活気がないこと、そしてまちの魅力を知らないことが原因でしょう。

- グループから出てきたアイデア

- 農業に興味のある若者をよんだまちづくり
 - 農業大学校とセットで農業生産法人を立ち上げることで、農業を学びたい人が集まります。卒業後も法人に就職す

ることで若者流出防止 & 労働力確保が可能になって町に人が集まると考えます。

○ Group3

■ 検討した課題

- 地方での起業で売上げが伸び悩むのは、地方で起業する仲間が少ない、そして地元のマーケットで売れていない問題があると思います。

■ グループから出てきたアイデア

- キッチンカーで取り組み発信

- キッチンカーで移動販売を始めて取り組みを可視化し、販売機会の増加接点になる場所を作れます。



作者名:松原 里紗



△分科会2参加メンバー

分科会2-2

未来の地球のために今必要な消費活動

- キーノートセッションの学び

コロナ禍で経済活動の停滞により環境負荷が減ったものの、廃棄物は増えてしまっています。特にプラスチックなど過剰なゴミ量を減らすためには、サーキュラーエコノミーを意識した無駄な消費をなるべく減らすことが必要です。消費者も地域での経済の循環やミニマムなもので暮らす生活など日々のサステイナブルな選択が必要です。



- ワークショップの議論内容

- Group1

- 検討した課題

- 環境に良い商品を選択すると普段より価格が高く購入が難しい場合があるため、小さく始められるエシカル消費を考えました。

- グループから出てきたアイディア

- エシカル消費部を立ち上げる
 - 学校・地域も巻き込んで、エシカル消費のムーブメントを作ると、社会全体でエシカル消費が広まります。

- 講演者の講評

- 周りの学生や地元を巻き込んだ資金調達をし、学校の備品をエシカルなものに変えていくことというアイディアは効果的だと思います。そして公共のものや学校の備品のような日常的に使用するものに対してエシカルな視点を取り入れることは大事です。このような取り組みは周りの方の認知も広がるため若者の力で大人に影響を与えられるから効率的です。

- Group2

- 検討した課題

- オーガニック野菜の地産地消へのこだわりを大切にしつつも、価格を抑えてより多くの人に提供するためには、ブランディングが足りない部分があるのではないのでしょうか。

- グループから出てきたアイディア

- 環境に配慮した経営を発信

- 顧客と対話できる空間を設け、環境への取り組みを共有することで、興味を持った顧客が口コミでカフェを発信し、結果的に経営理念に賛同する顧客増加が見込めます。

■ 講演者の講評

- 食べ物の美味しさと共に、メニューや使用する材料に気を遣うことに話題性を生むことも可能だと思います。例として上勝町のRISE&WINでは、ビールを作る過程の中で廃棄予定であったお菓子や町内で生産されている柚香のかすを、活用してビールの香り付に使っています。生産過程に着目し、美味しいビールを提供することによって多くのファンが生まれました。

○ Group3

■ 検討した課題

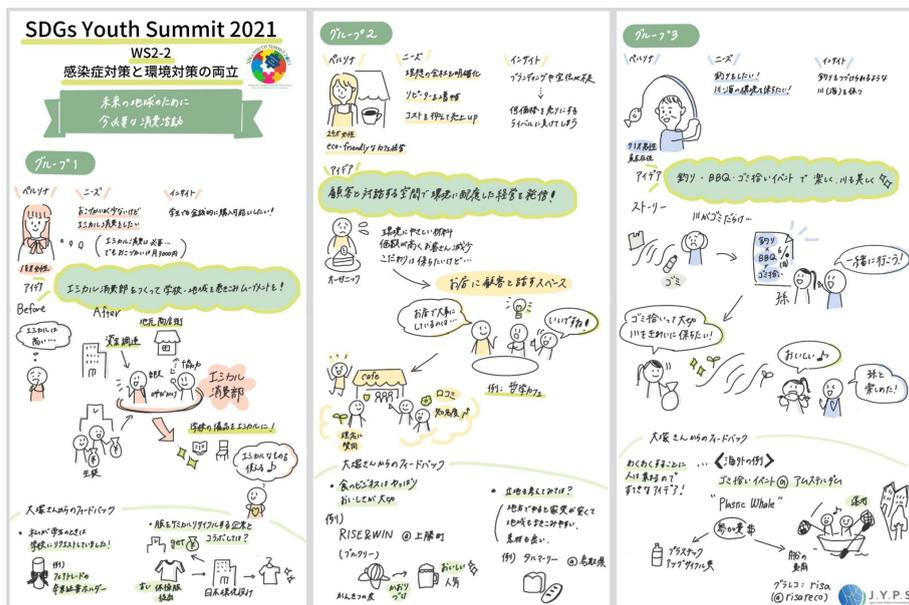
- 川や海がビニール袋などで年々汚れているなかで綺麗さを保つためには、多くの人を巻き込んだ環境への取り組みが必要だと考えました。

■ グループから出てきたアイデア

- 釣り/BBQ/ゴミ拾いイベント
 - みんなで交流した後に川のゴミ拾いをする事で、川や海を守ることが可能になります。またSNSで投稿することで、イベント内だけではなく、多くの人に知ってもらえます。

■ 講演者からの講評

- 環境問題だけでなく、釣りとBBQも含まれているイベントだと多くの方が参加しやすいです。環境問題などに関するイベントを作る時には特に「ワクワク」するイベントを企画できるかが大切になってくると思います。



作者名: 松原 里紗

分科会3-1

脆弱な状況下における栄養不良対策と財源確保

- キーノートセッションでの学び

子供たちの栄養不良は飢餓や病気の要因、成長や発達等に大きな影響を与える深刻な問題です。新型コロナウイルスの流行により、世界中で栄養不良状態や飢餓に陥る人が増加し、日本でも食への影響が出ている今、国際的な問題に対してユース世代や、弱い立場の人々が声を上げていくことが大切です。



- ワークショップの議論内容

- Group1

- 検討した課題

- 一人親家庭で栄養十分な食事をなかなか取れていない子供がいることは、栄養豊富な食事を食べられる場所や遊ぶ場所を提供する社会的関係がないことが起因しています。

- グループから出てきたアイデア

- こども食堂の利用

- 学校や学童などの施設を開放してもらい、NPOなどによる食事の提供や遊び相手、相談相手をつくることで、情報共有や協力できる体制を築けると思います。

- Group2

- 検討した課題

- 栄養十分な食事を取れていない子がいる状況では、ペルソナ自身や親の悩み・心配事を相談できる存在が必要だと考えました。

- グループから出てきたアイデア

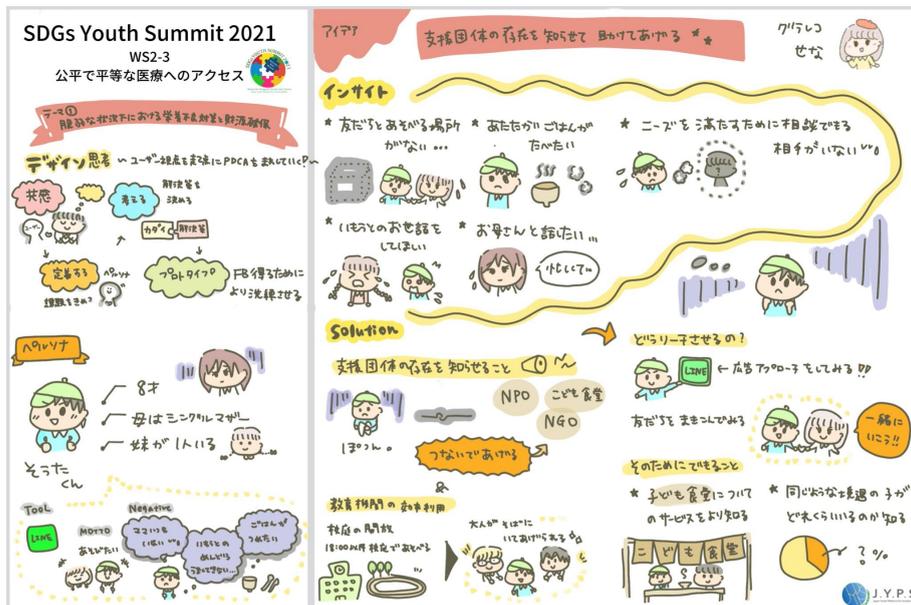
- 親も一緒に利用できる相談場所をつくる

- 親同士のコミュニティも作れるとより根本原因にアプローチできると思います。

- 講演者からの講評

- 身近な立場に対する解決も、俯瞰した大きなレベルの解決策も、必要です。シングルマザーの課題は、非正規雇用にも関わってきます。社会構造からの根本的な解決、たとえば雇用問題の変革も必要です。

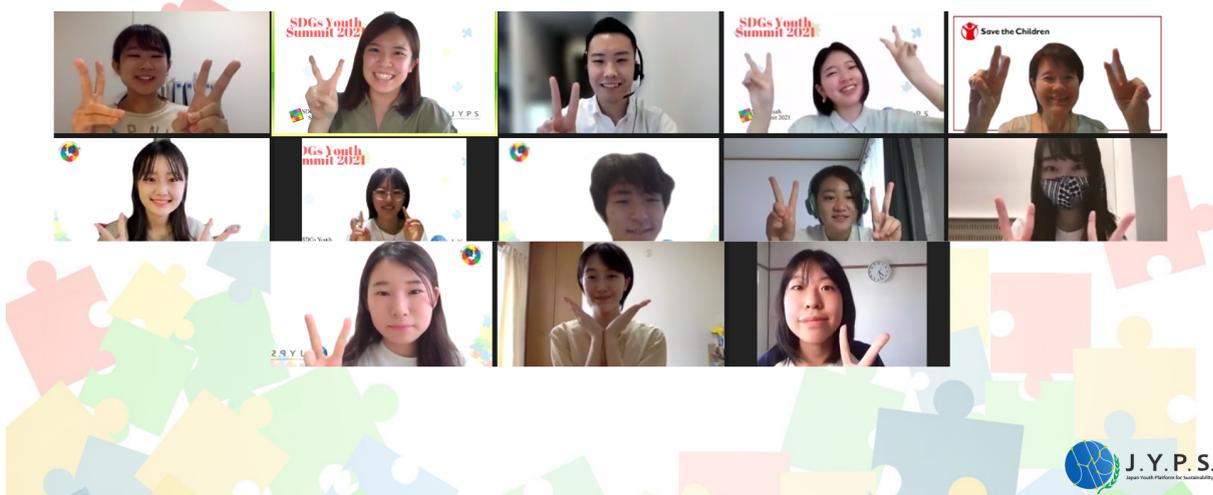
施設の利用等により、子供が貧困として特定されかねない恐れがあるのも問題です。施設や制度の利用者の安全を確保し、シングルマザーに対するスティグマを悪化させない解決が求められます。



作者: 三瓶 聖奈



分科会3



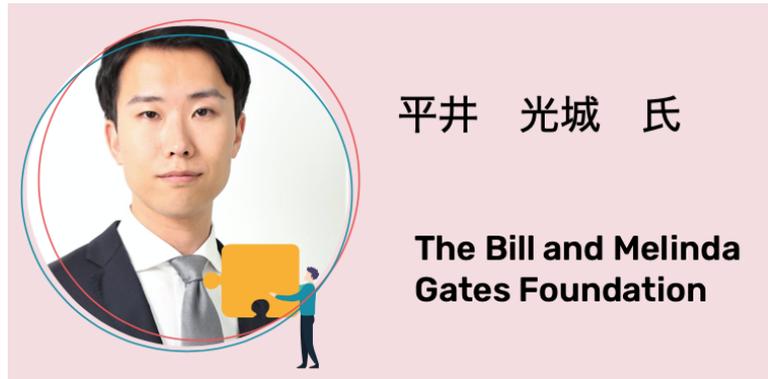
△分科会3参加メンバー

分科会3-2

国際社会と公平な感染症ワクチンへのアクセス

- キーノートセッションでの学び

新型コロナウイルスは社会的弱者の罹患率が高く、極度の貧困状態に陥る人が増加しています。驚異的なスピードでワクチンが開発され、提供されているものの、世界各国で、経済格差によりワクチン等医療へのアクセスに格差が生じています。「COVAX」が発足し、低所得国にもワクチンが届くように分配する機能を果たしており、こうした格差是正のために、日本が大きくリーダーシップをとっています。



- ワークショップの議論内容

- Group1

- 検討した課題

- コロナの影響で収入が減り生活が困難になってしまい、かつ社会保障も十分受けられる状況でないため、今後のライフイベントに対して不安を抱える問題は、不安を解消するための社会保障やその他サポートの拡充が必要です。

- グループから出てきたアイデア

- コミュニティ支援

- 定職に就くための就職支援など、悩み事や情報共有をできる環境をつくる必要があります。

- Group2

- 検討した課題

- 低収入な現状に悩むエッセンシャルワーカーの雇用形態や制度の改善を進める必要があります。

- グループから出てきたアイデア

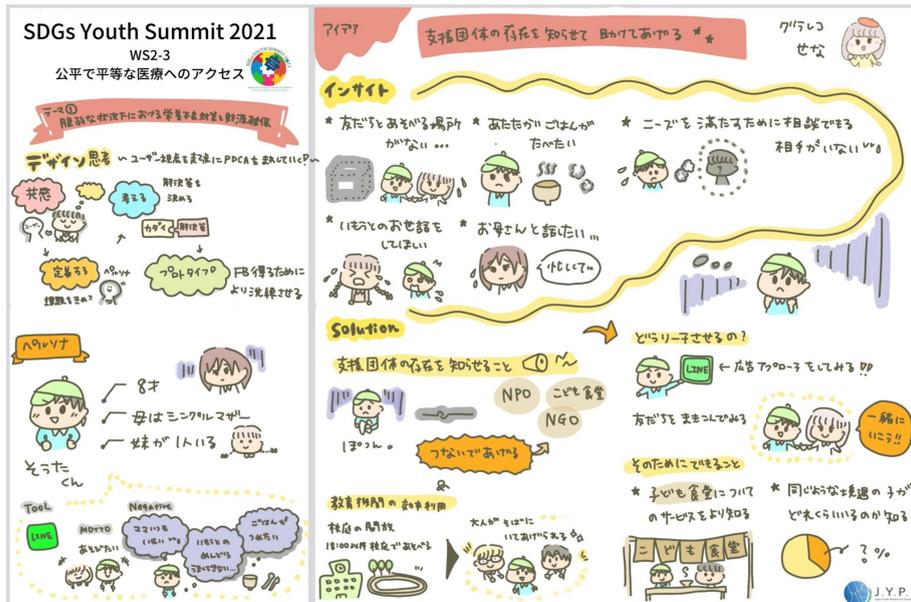
- 発信

- 負の報道をやめて実情を伝える事が大切です。

- キャリア教育

- ケアワークに関するキャリア教育の機会を作り、介護という仕事に対する意識の改善、働き手の増加を狙う必要があります。

- 講演者からの講評
 - 平井様
 - ケアワーカーなら介護福祉会があるからそこに働きかける等、大きな改善の動きにつながる可能性を探るために、常に知識のストックや専門家とのつながりを増やしていきましょう。
 - 堀江様
 - 支援する側がニーズを決めつけずに寄り添い、基本的社会サービスを受けられるように、収入や能力にとらわれない体制の構築が必要です。



作者：三瓶 聖奈

まとめ

SDGs Youth Summit 2021では、SDGs達成に向けたデザイン視点で大切である”当事者視点”を参加者はキーノートで学び、持続可能なアクションをワークショップで創出しました。Choose Your Future ~youth-led action towards SDGs~という題で実施されたこの取り組みでは、個々人の意識を高めてアクションにつなげること、そして一人一人のアクションからアドボカシーに繋げる機会をつくるという期待のもと開催されました。デザイン思考を活用して考えられた内容を取りまとめたアクションマップを活用し、ここから若者のアクションが広がり、若者の声により世界に届くことを願っています。「新たな日常」とは何かを問うきっかけを与え、持続可能かつレジリエントな社会の構築に向けた政策提言と継続的なアクションがこのアクションマップをきっかけに実施されますように。

持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム（JYPS）

各種SNS@JYPS2030

公式ウェブサイト：<https://www.jyps.website/>

イベント特設サイト：<https://youth-summit.site/>

お問い合わせ：japanyouthplatform@gmail.com

メーリングリスト加盟：<https://forms.gle/GNapj3d87xndfiu78>